

# EXHIBIT NO. 205

供 述 書

1734-1

For Ident

私ハ中華民國南京市カオ・ル・メン・オ・イ・メイ路七番地ニ住ム哲學家博士ス・イチニ・ア・ン・イ・ン次子ニシテ

私ノ左カオ・ル・メン・オ・イ・メイ路七番地ニ住ム哲學家博士ス・イチニ・ア・ン・イ・ン次子ニシテ

ハ一九一七年ニ「イリノイ」大學デ哲學博士ノ學位ヲ授ケラレマシタ。私ハ中國各地ノ種々異ツタ大學デ多年教職ヲ取り又二十五年以上中華民國通信省ニ關係ヲシテ居リマシタ。私ノ家庭ハ一九二八年以來。南京ニアリマス。

私ハ一九三七年ニ日本軍ノ南京攻撃ノ時南京ニ居リ日本軍ノ手中ニ陷ツテ後モ市中ニ殘留シマシタ。私ハ國際委員會ノ會員デアリ家屋委員會ノ主席ヲ勤メ、又國際救濟委員會ノ書記長デアリ、ソノ上ニ一九三七年両市陷落ニ引續キ結成サレタ「紅十字會」ノ會長ヲモヤツテ居リマシタ。私ハ南京ガ日本軍ノ手ニ陷ツテカラ後ニドンナ事が起ツタカニツイテミク知ツテ居リマス。日本兵ハ「南門」ヲ通ツテ入市シマシタ。日本軍ガ城壁ヲ破壊シテ入市シテ後ハ中國軍側ニハ目ニ見エル抵抗ハアリマセンデシタ。日本軍ガ市街ニ侵入スルヤ彼等ハ一般人ヲ見カケ次第ニ射殺シマシタ。中國人ニトツテハ、殺サレル爲ニハタダ街路ニ居サレズレバヨ

1734-2

イノデシタ。

日本兵進ハソレカラ秩序ヲ立テテ家宅搜索ヲハジメマシタ。彼等ガ発見シタ食物デアラウト何デアラウト片端カラ奪取シ、適齡ノ男ハ誰彼ノ容赦ナク掃ヘテ兵隊デアツタトイフ者ヲ連れ去リ或ハソノ場デ射殺シマシタ。私ハ連ン去ラレタ人達ノ大部分ハ後ニ射殺サレタカ或ハ大量虐殺デ嫌キ殺サレタト確カナ筋カラ報告ヲ受ケマシタ。

日本人ハ安全地區ノ搜索ノ權利ヲ主張シテ來マシタ。ソシテソコニ居タ多數ノ男ヲ連れ去リマシタ。私ハ約千五百人ガ一東ニナツテ連れテ行カレルノヲ目撃シマシタ。私ノ受ケタ情報ニヨレバ彼等ハ機關銃デ殺サレ、彼等ノ死体ハ池ノ中ニ投げ込まレタ。ソレハ後日引揚げラレ、スワスチカ會員ノ手ニ依ツテ埋葬サレマシタ。

民衆ハ一人一人ニ許可證ヲ發給スルト云フ口實デ全部並ベラレマシタ。ソシテ質問ニ對シテ、質問シタ兵隊ヲ満足サセル答辯ヲシナイカ、又ハモシモソノ兵隊ガ何等據ルベキ證據モナクテ、コノ男ハ兵隊ダツタト云フ決定ラスレバソノ人ハソノ場デ射殺サレルカ集團ノ中ニ入レテ連れテ行カレテ後ニ殺サレマシタ。

コノ市内ハ全くノ無抵抗デアリマシタ。男子ガ彼等ガ兵隊デアツタト云フ口實デ一掃サレ或ハ射

殺シ或ハ連レ去ラレテカラ後ハ愈市民に殺シ、婦女  
凌辱、放火掠奪ト云フ恐ルベキ血ノ變莫ガ始ツタ  
ノデアリマス。十三才以上七十以下ノ女ト云フ女  
ハ日本兵凌辱サレマシタ。長々續ケサマニ凌辱ヲ  
受ケタノデアリマス。幾千トモ知レナイ女達ハ日  
本兵ニ凌辱サレタ揚句ニ殺サレテ屍体マデモ汚サ  
レテ居マシタ。市中及び其ノ外郭デ繰リ返シ行ハ  
タコノ兵士共ノ行爲ノ例證ニシテ私ハ南門ノ「シ  
ンカイ路七番地」ノ例ヲ引用シマス。ソノ家デハ  
十一人ガ殺サレタノデアリマス。

兵隊ガ戸口ニ來タ時ニ年ヨリ父が應待ニ出  
マシタ。彼ハソノ場デ射殺サレマシタ。七十ヲ超  
エタソノ妻ハ何事ガハジマツタノカト思ツテ見ニ  
出テ來マシタ。彼女ハ自分ノ夫カラ數歩ノ所デ射  
殺サレマシタ。彼等ノ娘ガ赤ン坊ヲ推イテ出テ來  
マシタ。兵隊ハソノ母ト赤ン坊ヲ二人共殺シタノ  
デアリマス。ソノ家族ニハ十七ト十四ニナル二人  
ノ未婚ノ女ノ子ガアリマシタ。二人トモ兵士ニ凌  
辱ヲ受ケ揚句ニ殺サレマシタ。一人ノ女ノ子ハテ  
ーブルノ上ノ血ノ海ノ中デ鹽ニ樺切ラツキコマレ  
テ横ハツテ居リ、モウ一人ハ香水ノ瓶ヲ鹽ニツキ  
ササレテ「ベット」ノ血ノ中ニ横ハツテ居タノデ  
アリマシタ。五人ノ他ノ女モ此ノ家デ殺サレタノ  
デアリマス。即チ日本兵ガソノ家デ見付ケタ全員  
ガ殺サレマシタ。

ガ殺サレマシタ。一人ノ少女ハ家ノ近クニ住ミテ居サレテ後一日一晩カクレテ居テ助リマシタ。

コウ云フヨウナ行爲ガ南京陥落以來約三ヶ月間モ續イタノデアリマス。ソノ後ハ凌辱ヤ殺人ハダツト減リマシタ。

南京陥落後三日目ニ私ハ市街ヲ自動車デ通リマシタ。ソレヲ日本兵ガ正協會ニ死体埋葬ノ相談ヲシニ來タカラデアリマス。私ハドンナ様ニナツテ居ルカラ見ニ出カケマシタ。ソシテ町中至ル所ノ戸口ト云ハズアラユル場所ニ民衆ノ死体ガアルノヲ見マシタ。一般人ノ死体ハ彼等ガ暴力ニ依ツテ殺サレタ事ヲ示シテ居リ彼等ノ死体ハ屢々汚サレテ居マシタ。

正協會ハ南京ノ周邊デ陥落以來日本軍ノ手ニ依ツテ殺戮サレタ四萬人以上ノ一般人ヲ葬ツタノデアリマス。コノ協會ノ外ニモ幾ツカノ會ガ死体ノ埋葬ニ働キマシタ。多分生き殘ツタ家族ノ人ヤ友人ノ手ニ依リ後ニナツテ埋葬サレタ多クノ死体モアリマシタ。

占領後第二日目何等ノ抵抗モナカッタ時ニ組織的ノ放火ガ日本兵ニ依リ行ハレタノデアリマス。軍用トラックハ店ニ横付ケニサレスベテノ商品ハ運ビ去ラレ、兵隊ハ火ヲ掛ケテ店ヲ焼クノガ常デ

シタ。我ハ宛親戚ニ掠奪ニアヒ、ソレカラ幾多群  
ハレマシタ。個人ノ財産ノ中デ持チ運ベルモノハ、  
スベテ掠メラレ、兵隊ノ中デ持ツテ行カレマシタ。

大略二十九萬ノ人が盡全地區ニ集ツテ來マシタ  
ソウシテ兵隊ガ幾度トナク繰リ返シハイツテ來テ  
婦女子ヲ大群ニシタリ小群ニシタリシテハドコカ  
ヘ移動サセマシタ。彼女達ハ追レテ行カレ、凌辱  
ヲ受ケ盡タ命ヲ奪ハレタノデアリマス。

約二十五ノ難民收容所ガ出來マシタガ彼等全部  
ヲ世話スル程充分ノ外國人ハ居マセンデシタシ、最  
最悪ノ殘虐行爲ハ大學ノ敷地カラモ宣教師ノ家カ  
ラモ離レテ居タ收容所ニ於テ行ハレマシタ。

私ハ「マギー氏」ガ數枚ノ寫眞ヲ攝ス手傳ヲシ  
マシタ。私ノ聞イタ所デハ、ソレ等ノ寫眞ハ「ジ  
ョージ・フイツチ」ガ市カラ持チ出シタ由デス。

私ノ最善ノ推定ニヨレバ南京市内外デ陷落後且  
ツスベテノ抵抗ガヤマツテ後ニ日本兵ノ手ニヨッ  
テ殺戮サレタ中國人一歳人ノ總數ハ二十萬人内外  
デアリマス。婦女子ノ凌辱ヲ蒙ツタ數ヤ怪俄ヲサ  
セラレタ人間ノ收容蔽ナク破壊サレタリ燦カレタ  
リシタ建物、又ハ兵隊達ニ依ツテ掠奪サレタ財寶  
ナドハ數ヘ切レナイデセウ。



日本軍當局ヤ、領事館ニ對スルテ度々抗議シマシタガ、拒絕サレタ許リデシタ。我々ハ抗議ヲ持ツテ行クト出テ行ケト亂暴ニ怒鳴ラレルダケデ、コノ状態ヲ改善スル何等ノ處置モ論ゼラレマセンデシタ。日本兵ニヨツテ行ハレ、陷落以來三ヶ月間續キソ後次第ニ終熄シタ「罪ノ變算」ニ付イテハ絶對ニ、難解ノ餘地モ理由モアリマセンデシタ。

占領期間中、日本兵ハアリトアラエル方法デ我等中國人ノ道德ヲ害シマシタ。彼等ハ賭博、賣淫阿片ヤ鴉片ヲ公然ト賣ツタリ使用シタリスルコトヲ獎勵シ、最悪ノ分子ヲ市民ノ上ニ立ツ様成アル位置ニ据エタノデアリマス。

彼等ハ遺囑會釋モナク教育施設ヤ教會、宗教的團體ノ建築物、基督教育青年會館、外國公使館ヤ有カナ中國市民ノ住宅ナドヲ破壊シマシタ。

日本人ハ又經濟戰ニモ乗り出シテ中國ノ商品ヤ原料品ヲモ掠奪シマシタ。日本ハ有ユル種類ノ企業ヲ獨占シ、出來得ル限リヲツクシテ日本及ビ彼等ト協力セントスル人々ニ依ル商業ヲ助長シ、法シテ中國人ニ事業ヲ管理スル事ヲ許シマセンデシタ、コレハ特ニ大都市ヨリモ小都會ニ於テ顯著ナ事實デシタ。

同ジ様ナ形式ノ殺人婦女子凌辱ハ町デアラウト市デアラウト或ハ又ゴク小サナ村落ニ於テモサヘモ日本軍ガ占領シタ時ニハ必ズ行ハレタノデアリマス。小サイ場所デ國際委員會モナク住民ニ對スル保護モ請ゼラレズ、兵隊共ノ恣意ナ行動ヲ阻ム何等ノ處置モ行ハレナイ様ナ所デハ屢々ヨリ情態ヲ呈シタノデアリマス。コレガ彼等ノ戰爭ノ模範ナノデアリマス。南京ハ一例ニ過ギナイノデアリマス。私ハ自分ノ産レタ故郷ノ貴州ノ町ガアル江西安徽ノ兩省方面デモ同ジ様ナ行爲ガ繰リ返サレタ事ヲ知ツテ居マス。

日本人ト彼等ノ傀儡政府ノ役人共ハ阿片窟ヲ開放シ阿片ヤソノ他ノ麻醉藥類ノ公賣ヲ許可シタノデアリマス。

日本軍ハ中國民衆ヲ恐怖ニ襲リ立テ彼等ガ愛惜シ神聖視シテ居ルアラユルモノカラ彼等ヲ引キ裂クト云フ神經戰ヲヤツタノデアリマス。若シ單ナ一幼兒ガ何カ日本人ニ反對スル様ナ事ヲ誓イタ様ナ場合ニデモ全家擧ツテソノ責任ヲ負ヘサレテ殺サレルノデアリマシタ。私ハホンノ一寸シタ侮辱ヲ日本人ニ對シテ致シタト云フダケデ全村暴ゲテ全ク破壊サレ住民ガ殺サレタ多クノ例ヲ知ツテ居リマス。一例トシテハ、南京カラ程遠カラヌ揚子江ノ北ニアルテイエン・ワン・シェーノ事件ガ

1734-8

ソレデアリマス。

各中國人へ日本兵ニ出會々タ時へ鄭寧ニ照ヲ下  
ゲテ敬禮ヲサセラレマシタ。ソウシテ日本兵ガ正  
シイト考タ特殊ナ仕方デ證ヲシナケレバ彼等ハソ  
ノ場デ敢シク闘セラレルカ恐サレルノデアリマシ  
タ。

一九四六年四月六日自署捺印名ス

スー・チュアン・イン (署名捺印)

前述ノ陳述ハ余ノ面前ニ於テスー・チュアン・イン  
ニ依リ行ハレ爾後文書ニ作成セラレ、中國、南  
京市ニ於テ一九四六年四月六日ニ余ノ面前ニ於テ  
彼ニ依リ署名捺印ヲ了ス。

東京國際檢察部

首席檢察官 デービッド・ネルソン・ザットマン

スー・チュアン・インハ正當ナル誓言ヲナシタル  
後前述ノ一九四六年四月六日付陳述書記載事實ハ  
彼ノ智識及ビ所信ニ關スル限りニ於テハ眞實ナル  
宣誓ス。

一九四六年六月十九日署名ス。

ジョン・エフ・ハムメル・署名

陸軍法務少佐